

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(中学校用)

(1) 学校教育目標	真理と学問を尊重し、心身ともに健康で、国際社会の進展に寄与すべき、積極有為な人材を育成する。 本目標を達成するため、能力と個性に応じた教育活動を通して、次の諸項の実現に力を置く。 ア 知性の深化 イ 徳性の涵養 ウ 個性の確立 エ 自律心の養成 オ 心身の鍛練
(2) 現状と課題	現状：県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続している。 課題：生徒指導上の問題（不登校、インターネット・携帯電話に関わる問題等）への対応や、教育課程編成に伴い、中高ともに人員・時間・場所（教室）等の物理的な課題に苦慮している。
(3) 重点目標	1 併設型中高一貫教育校の特色を活かす系統的教育活動の展開 2 心身共に健全で豊かな心を持つ生徒の育成 3 確かな学力を育む教育の充実と生徒の適性に応じた進路実現 4 理数教育及び語学教育の充実と探究型学習の推進 5 開かれた学校づくりの推進 6 快適な職場環境の醸成
(4) 結果の公表	三本木高等学校と同様に、各学年の「学年だより」や「学年懇談会」で説明している。 またホームページにおいても広く公開している。

学 校 名	青森県立三本木高等学校附属中学校
自己評価実施日	令和6年2月16日(金)
学校関係者評価実施日	令和6年2月22日(木)
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置付けている。 学校評議員 5 名 (地域企業代表 1 名、大学関係者 1 名、保護者代表 1 名、後援会代表 1 名、学校協力者 1 名)	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携の強化 ②中高6年間を見通した教育計画及び教育活動の再構築と充実	①附属中学校での先取り学習（数学・英語）をはじめとする中高6年間を見通した教育課程を実施する。中高教員の授業への相互乗り入れを継続する。 ②必要に応じて中高合同行事（進路講演会、芸術教室、交通安全教室等）を実施する。 ③部活動の連携を深め、中体連終了後に高校の部活動へ円滑な移行ができるように継続して取り組む。	①附属中学校での先取り学習や少人数指導（数学・英語）等、中高6年間を見通した教育課程を継続して実施できた。あわせて、中高教員の授業への相互乗り入れを継続できた。 ②中高合同行事は、ほぼ新型コロナウイルス感染拡大前の形で実施することができた。 ③部活動の連携を深め、中体連終了後に円滑に高校の部活動に移行できるように継続して取り組むことができた。	A	・中高一貫教育のメリットを最大限活かしてほしい。 ・中高生徒同士の懇談の機会を増やしてはどうか。 ・中高6年間における、生徒間の学力差や高校への入学選抜がないことで懸念される学習意欲についてより一層工夫する必要がある。 ・生徒の「良き友人に恵まれている」の評価について高い傾向にある一方で、「附属中が好きですか」の評価については下降傾向にあることが心配。	次年度も、より効果的な内容や方法を工夫した魅力ある教育実践を計画する。 また、中高一貫教育課程委員会を核として、学期ごとの見直し・改善を図りながら、中高6年間の教育活動を推進する必要がある。
2	①自らを律し、他を尊重する、品格ある行動様式を備えた生徒の育成 ②文武両道を実現する部活動 ③教育相談委員会等による支援体制の構築	①中学校単独開催の体育祭、三高祭、合唱コンクールを通して、生徒の自治的な取組と生徒会活動の活性化を図る。令和3年度から県教育委員会の指定を受け、部活動の地域移行を推進している。あわせて、部活動の精選を進める。 ②定期的に教育相談委員会（年9回）、企画会議（月1回）、学年会議、生徒指導会議（隔週）を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、組織的に対応する。 ③学校生活アンケート（年5回）、アセス《学校環境適応感尺度》（年3回）を実施し、生徒本人の主観的な適応感を包括的かつ多面的に判断し、教育相談に生かす。また、データを高校と共有することにより、生徒情報を進学後の生徒指導に生かす。	①体育祭、三高祭、合唱コンクールともに、有観客での実施ができた。これまでの実施内容及び時間を再検討し、準備も含め限られた時間の中で、生徒の達成感をより得られるよう取り組んだ。 ②今後も段階的に部活動の地域移行を行っていく。また、定員数減もあり、部活動の精選についても継続して取り組む。 ③定期的に教育相談委員会（年5回）を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、組織的に対応した。 ④学校生活アンケート（年5回）、アセス《学校環境適応感尺度》（年3回）を実施し、生徒本人の主観的な適応感を包括的かつ多面的に判断し、教育相談に生かすことができた。また、データを高校と共有することにより、生徒情報を進学後の生徒指導に生かしていく。	A	・学業以外の活動で忙しくしすぎないことを望む。 ・教師側の負担もあるが、部活動は先輩後輩の人間関係を学ぶ貴重な場となるので、積極的な推進をしてほしい。 ・部活動について、他の中学校との連携も模索する必要があると思う。 ・不登校の理由は多種多様であり対応が難しいが、不登校対策に引き続き取り組んでほしい。	各行事については、より教育効果を高めるため、細部にわたる改善を、今後も積み重ねていく必要がある。 部活動については、生徒の不利益につながらないよう、今後も県教育委員会の指導助言を頂きながら、地域移行と部活動数の見直しを継続的に推進する。 また、これまで以上に教育相談体制の構築に努めるとともに、子供たちに寄り添った丁寧な対応を組織的に実践したい。
3	①学習意欲を高める授業改善と家庭学習の充実 ②自己の将来とのつながりを見据えたキャリア教育の充実 ③諸学力テストの実施	①校内研修を充実させ、全ての教科で「主体的で対話的な深い学び」のための授業実践に努める。 ②中高一貫教育課程委員会による、6年間のキャリア教育プログラムを再構築するために、中学校3年間のキャリア教育プログラムの見直しを行う。 ③諸学力テストの見直しを行う。 全国学力・学習状況調査（文部科学省）3年生、青森県学習状況調査（県教委）2年生、学力推移調査（ベネッセ）全学年、駿台中学生テスト（駿台 全国版）3学年希望者、学力診断問題（正進社 県版）全学年	①外部から助言者を招き、「主体的で対話的な深い学び」についての校内研修を計画的に実施し、教職員それぞれの授業改善につなげることができた。 ②中学校3年間のキャリア教育プログラムをP D C Aサイクルのもと、実施した。今後も、6年間のキャリア教育プログラムの再構築に取り組む。 ③諸学力テストを計画的に実施した。全国学力・学習状況調査（文部科学省）3年生、青森県学習状況調査（県教委）2年生、学力推移調査（ベネッセ）全学年、駿台中学生テスト（駿台 全国版）3学年希望者、学力診断問題（正進社 県版）全学年	B	・学力向上のため、日々の授業実践を大切にしてほしい。 ・生徒の学力を把握し、近隣の中学校との差別化を図ることが求められる。 ・ICTを活用した授業改善について、今やどの職場でもICTを活用し、業務の効率化が図られている。学校でも積極的にICTを活用し、授業の効率化や改善を図ってほしい。このことが、教職員の負担軽減につながると思う。	「授業第一主義」を掲げ、ICTを活用した実践をはじめ、今後も教師の授業力向上に努め、学力向上につなげたい。 キャリア教育について学年単位での実践が多く、今後とも、本校で生徒に身に付けさせたい基礎的汎用的能力を明確にしながら、キャリア教育の充実に努め、生徒の学習意欲を一層高めていく必要がある。
4	①SSH事業で培われた理数教育のノウハウを継承し、課題解決型の授業を展開 ②外部専門機関と連携した英語指導力向上事業を積極的に活用 ③中高一貫教育の中にGSC（グローバルサイエンス）及び語学教育の運営体制を構築	①「中高一貫教育課程委員会による運営体制の再構築」や「授業改善」の他に、数学、英語では中3時の先取り学習（高校教諭による）、年間標準授業時数を超えた授業時間数の確保、中高協働探究セミナーの実施、高校のGSCの発表会等への参加などを実施する。 ②大学受験を見据えて英検の他、R3年度から数学検定、R5年度から漢字検定も実施し上位級取得を目指す。	①GSC事務局と協力しながら、数学・英語での先取り学習、高校教員による探究的な学習（総合的な学習の時間）、中高協働探究セミナー、グローバルサイエンスコースの課題研究発表会への参加などを行った。 ②英語検定では、今年度も、2級、準2級合格者を多数出すことができた。また、数学検定や漢字検定も実施することができた。	B	・今後も探求活動を推進してほしい。自分自身が何に没頭できるのか知るきっかけにもなる。そのため、将来の目標設定もしやすく、目標がある子は強いと思う。 ・進路情報やGSCの活動について、保護者や地域に対し、これまで以上に情報発信してほしい。	GSC事務局を核として、より一層中高が連携した教育活動を実施する必要があるとともに、外部への情報発信に努めたい。 また、今後も各種検定取得を積極的に支援したい。
5	①小学校への訪問活動を継続 ②本校ホームページへの定期的な情報公開	①小学校への訪問活動を継続する。 ②担当職員を決め、小学校との情報交換を密に行う。 ③本校HP（R5年度リニューアル）に、定期的に情報を公開する。	①教頭及び教務主任が上北管内の希望する小学校を訪問した。 ②小学校担当職員を決め、小学校との情報交換を密にした。 ③本校HP（月2回程度）に、定期的に情報を公開した。	B	・ホームページの内容を工夫してはどうか。 ・ホームページのリニューアルに伴い、よりわかりやすく、小学生やその保護者が知りたいことを調査して、更に内容を充実してほしい。（ホームページ内で迷子になることもある） ・バス代の高騰により、遠方からの入学が減少していることが心配。	本校ホームページがリニューアルされたこともあり、月2回の更新を目標に、本校の情報発信を行うとともに、内容の更なる充実に努める。また、学校説明会や小学校での説明会について、今後も開催時期や内容も含め改善を図りながらより充実したものにしたい。
6	①教職公務員としての服務規律の確保 ②教職員間のコミュニケーションによる相互理解 ③心身の健康を維持・増進と多忙化解消	①教職員の服務規律の確保の徹底について、研修資料をもとに全職員で定期的に確認する。 ②教職員間での日常的な情報交換を密にし共有する。 ③ワークライフバランスを確保できるよう、業務の効率化を図る。	①職員朝会や職員会議等で、管理職から情報を提供し、服務規律の確保の徹底について職員全体で何度も確認した。 ②些細なことでも職員同士で情報を共有し、組織的に対応した。 ③業務の効率化を図り、年次休暇が取得しやすい環境を整備した。	B	・教育の質を上げるためには、まず教職員が幸せであることが重要。職員の働き方改革を進める上で、保護者として協力していきたい。 ・教職員の方々がまず心身ともに健康であるよう望む。 ・世代別で仕事に対する考え方の違いが大きくなっているように思う。教職員間で相談しやすい環境づくりが大切だと思う。	踏襲型の業務を見直し、ワークライフバランスを確保しながら、教育活動にあたっていく必要がある。 服務規律については、教職員の不祥事が生じるときに、職員会議等で注意喚起を行うとともに、校内研修などでも扱い、職員の意識の高揚を図る。

(11) 総括	今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、これまでの教育活動に戻すとともに、より充実した教育活動が展開できるよう、内容や方法を再検討しながら教育実践を積み重ねてきた。入学定員が見直されたこともあり、次年度は、これまで以上にそれぞれの目的や生徒に身に付けさせたい力を明確にしながら取り組みたい。
---------	--